

プレアデス高等評議会への感謝と、正確なタロット・カード占い への敬意を込めて

Greatchain
October 4, 2025

先日、20年ぶりに拙宅を訪れた、ある有力学者の友人が、私が昔と全く変わっていないのに驚いた。実はこれは神の仕事だと私が言うと、笑っていたが、それが私の実感である。91歳も半ばを過ぎた私に、特に身体機能で不自由なことは（腰痛以外には）起こっていない。実際、奇跡というべき「ありえない」ことが、今、特定の方面で起こっているようである。

現在、ユーチューブ動画に掲載されている「プレアデス高等評議会 サナ」という記事は、私に対し特別の表彰状を送ると言っている。金銭の贈与ではないので、私はこれを有難く頂戴しようと思う。それは私への賛辞としてこう言っている——「宇宙には数えきれないほどの存在がいますが、その中でもあなたの周波数は、ひと目でわかるほどの独自の構造を持っています…」「あなたは一過性ではない…強い進化の意志をもつ…光の点灯者です…」

言い方はさまざまだが、このような言い方で、私に賛辞を下さる方々はかなり多い。私はただ戸惑うばかりだが、神から見て、現在の自分の在り方をこのまま続ければよいことがわかる。数日前、私の尊敬する、（蛇蝎のように言われている）ある宗教指導者の夢を見た。どこわからぬ所で、彼は私の少し前に横を向いて座っていたので、私がそこまで歩いていき、「あれ、○○先生じゃないですか」と言うと、彼はニコニコしながら「私はあんたと相性がいいんだよ」と言った。私が、「はあ、相性ですか、相性は英語ではchemistryというんですよ」と言うと、彼は「ああ、そうかい」と言って機嫌よく笑っていた。

ここでも、私の発する「波動」が、靈的には普遍的な、ある程度の高い数値を示していることがわかる。先日の、あの理数系学者も、いわゆる電磁波のほかに、靈的な波動が宇宙には存在するのだと言っていた。

私はこれを自慢して言っているのではない。私は確かに人を憎んだりすることはないが、それは、そうするほうが自分にとって生きやすいからであって、自慢するようなことではない。それは神、あるいは神々自身がそう言っている——「お前は特別功績があるわけではない」と。もしそれでも、私に多少の功績があるとすれば、私がそれを全く正直に、人より多少巧妙に分析して見せるからであろう。

私はプレアデスその他の、地球に関心を持ってくれる星人たちから、これまで全く知らなかつた、非常に貴重な多くのことを学んだ。もし「プレアデス星人など馬鹿々々しい、みんなデマだ」と言う人がいたら、彼らには教育的動画の一つを見ることをお勧めする。それは、今決まったばかりの5人の新総裁候補の一人が、超危険人物であることを、徹底的に詳細に分析している。勿論これはジャーナリストではないのだから、説得力がある。自分でごらんになるとよい。私からは何も言わないことにする。

今、プレアデス星人や、他の「銀河連盟」の人々が、我々に向かって必死に警告していることがある。それは地球上のあらゆる人間が、今、二つの道の一つを選択しなければならないということである。もしその選択を誤れば、我々は、しばらくは、3次元の遅れた、分断と争いを繰り返す世界に留まらねばならないという。今起ころうとしていることは、「すべてがひっくり返る」こと、Quantum Reality Shift, Soul Resonance, Pole Shiftといった宇宙的大変動だと言っている。

これは我々の地球上に、蛇のような「脱皮」が起こることだと考えればよい。不幸なことに、我々の大多数は、脱ぎ捨てた皮が我々の本拠地であるかのように、しがみついているが、我々の地球の本体は、すでに別の、高次元の世界に移りつつある。この移行は初めは見えないほどわずかであっても、これは宇宙的出来事であって、元へ戻すことはできない。これについても私はある比喩的な夢を見たことがある。

ところで私は、このようなブログ記事で、私なりの決意があって、自分の姓名を伏せている。これはある種の私の「美学」であって、死んでもそれを固守するとは言わない。その時は成り行きに任せようと思っている。

それとは別に、私が死ぬ前に言っておかねばならないことがある。この問題は、このところユーチューブのタロット・カード占いで囁かれている、私を「いじめている」者の「因果応報」の話である。私はこの占いの不思議な、恐るべき正確さには驚嘆するが、これが私とつながって私の旧友が出てくることには、暗鬱とならざるをえない。確かに彼は、私の親しい同僚でありながら、彼と私は性格が正反対であるために、対立を強いられる運命となった。

(彼はごく最近、他界した。)

私は、真相心理を見抜くタロット占いでも知らない事実を、若干、示唆しておかなければならない。実はこの世界に入ると同時に、驚くべき僥倖によって、私は人の驚く学問的仕事を発表することになった。これが嫉妬を招かないはずがなかった。そしてそれは、タロット占いに出ているような経過を正確に辿った。ただ私は「いじめられた」自覚はなく、「因果応報」など思いもよらないことで、ただかなり長い間、不愉快な思いが残ったのは事実である

ただひとつだけ、タロット・リーダーをはじめ誰一人知らない、私と彼だけが共有する秘密がある。彼はある時、向こうから私の前へやってきて、「君のソネットは本物だ」と言ってくれた。全く予期しなかった人物が、私の最も言ってほしい一言をいってくれたのである。私は彼の肩を抱き、「ありがとう、うれしい」とだけ言った。そこに誰も見ている者はいなかつた。実はこれは一度書いたことだが、もう一度言うと、「私が死ぬ時には、彼の言った言葉を抱いて死いたい。」